

ぼくは、年中から野きゆうをならっています。ぼくのお父さんが高校のソフトボールのかんとくで、しあいを見てとても楽しそうだったのではじめました。ぼくの入っている野きゆうチームの名前は「ゆたかベアーズ」といいます。ここからは、ぼくが野きゆうをならいはじめてからのせい長を、しようかいます。

年中のとき。ぼくは、ファールなどのルールもよくわかっていませんでした。バットのこまえ方もよくわからず、グローブのどこでボールをとればいいのかもわかりませんでした。だから、れんしゅうのときもうてたとしても内野ゴロでアウトばかり。ボールがとんできたとしてもエラーばかり。くやくしてたまらなかつたのを、今でもおぼえています。

そこからぼくは、お父さんといっしょに家でもれんしゅうをしました。グローブのどこでボールをとればいいのかを教えてください、だんだんボールがとれるようになりました。お父さんに、「とれるじゃん、すごいね。」

とほめてもらえることがうれしくて、もっとももっとたくさんれんしゅうをしました。

年長になったころには、グローブのポケットのいちも分かってきて、守びについたときに、とんできたボールもとれるようになってきました。でも、バッティングはまだまだ。家でお父さんともうと

つくんしました。お父さんから、

「こまえをもうちよつと上にして、ふみこむしゅん間に力を入れてうてば、とおくへとぶよ。」

とアドバイスをもらいました。そのとおりにうってみたら、インコースやアウトコースのボールも、外野までとび、少しずつヒットがうてるようになりました。とてもうれしかったです。

小学校一年生になり、ぼくはジュニアチームから一々六年生チームへかわりました。二々六年生は上手な子がたくさんいました。上手な子といっしょにれんしゅうすると楽しくて、だんだん自分が上手なようになっていく気がして、れんしゅうにさんかすることがわくわくしました。それでも、打つときのかまえはまだまだでした。

一年に一どの合しゆくの日。しあいがあり、ぼくはセンターで出ました。でも、ボールは一きゆうもとんでこず、おもしろくありませんでした。これではぼくは上手くなれない。なので、ピッチャーのれんしゅうもするようになりました。足の上げ方や、うでのふり方も教えてもらい、フォームのれんしゅうもがんばりました。そのおかげで、少しずつたまがなげられるようになりました。

二年生のぼくたちには、まだしあいがかつやくするチャンスはありませんが、ぼくは野きゆうが大すきで、もっともつと上手になりたいと思っています。だから、ぼくは、メジャーリーグでかつやくする大谷しようへいせん手と同じように「マンダラチャート」を書き、やるべきことにしようせんしています。

ぼくの一ばんの目ひようは、プロ野きゆうせん手になって百六十キロのボールをなげることです。その目ひようをかならずたつせいするため、ぼくは大すきな野きゆうをベアーズでも、お父さんと

のれんしゅうでも、いっしょうけんめいがんばっていきます。